



大泉小だより

令和7年1月8日
練馬区立大泉小学校

「あけましておめでとうございます」

校長 小高敏男

昨年中は、本校の教育活動に対し、保護者の皆様、地域の皆様、関係諸機関の皆様には、大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。今年も、教職員一同、子供たちの健全育成に全力を尽くしてまいります。本年もご支援くださいますようお願い申し上げます。

「あけましておめでとうございます。」「謹賀新年」「HAPPY NEW YEAR」など、新年を迎えたときに使われる言葉は、世界共通で新しい年の幸せを願う気持ちが込められた言葉です。私たち大人は、子供たちが大きな夢や希望を育めるようにしていきたいものです。

「最近の子供たちは、昔に比べて大きな夢や希望をもてない傾向にある。」ということを知ります。確かに、世界的にも戦争や災害など暗いニュースが多く、情報化社会の現代では子供にも現実が突き付けられ、子供たちの考え方も現実的となり、夢がもちにくくなっているとも考えられます。その一方で、子供たちの心の中には、「よりよくありたい。」という気持ちもあるはずで

大リーグで活躍する大谷選手は、次のような言葉を言っています。

「人生が夢をつくるんじゃない。夢が人生をつくるんだ。」 「先入観は、可能を不可能にする。」

この二つの言葉は、大谷選手が高校時代に書いた「目標達成シート」に書かれた言葉であり、私も好きなフレーズです。不可能を可能にしてきた大谷選手の根幹となる精神の支柱のような言葉であると感じます。この言葉を信念にモチ、高校時代の大谷選手は、夢を実現させるための具体的な「目標達成シート」を作成して、日々努力を重ねてきました。この大谷選手の言葉に、夢がもてない子供や「よりよくありたい。」と思う子供の気持ちを生かすヒントがあると考えます。

大谷選手は、夢を語り、一足飛びに夢を実現させたものではありません。「小さな目標達成の積み重ねが夢を実現させる。」と努力してきたのです。具体的な小さな目標であれば、自身がもっている力で達成することができ、目標達成は次の意欲につながります。この小さな努力の積み重ねで夢が現実のものになるから「夢が人生をつくる。」と言っているのです。

私たち大人は、子供がもっている力や伸びた力を実感させることと、夢の実現に向けた小さな階段の道筋を示してあげることが大切なのではないでしょうか。また、大人が示すだけでなく、子供自身が自分を見つめることができるように、子供自身が夢や目標に向かって何をどのようにすべきなのかを判断し実行できるようにと、子供を育てていく必要があります。

自分を見つめることができる子供は、日々の自己の成長を実感することができ、次への自信や意欲へと気持ちをつないでいくことができます。また、学校での子供は、集団の中で学習しています。集団の中の自分を見つめることは、集団を見つめる力にもつながります。そして、自分を見つめられる子供は、柔軟に人や出来事に対応していきます。失敗はもちろんありますが、自分が見えていれば自己修正が早く、学習活動も然り、行動様式も成長していきます。更には学習集団のリーダーとして誰もが認める存在になるのではないのでしょうか。

子供は、集団の中で影響し合いながら関係性を築いて生活していきます。私たち教師は、夢や目標に向かって自分を見つめることができる子供が、子供集団の中で広がっていくように働きかけていきます。それが、大泉小の関わり合いのある教育活動を重視する理由でもあります。

新しい年が始まった1月は、子供たちにとっては、次のステージへの心構えや目標をしっかりとつくる時です。「一年の計は元旦にあり」です。この機会に、自分を見つめ、自己の夢への具体的な目標をもたせていきます。

年頭にあたり、子供たち、保護者、地域の皆様にとって、新しい年が心安らかで、実り多い輝かしい一年でありますように祈念いたします。